

企画展示報告 1 澤田教一写真展

開催期間：平成 29 年 7 月 29 日～8 月 31 日

主催：鯖江市・鯖江市教育委員会

協力：澤田サタ・社会福祉法人あすなる福祉会・あすなる保育園 理事長 廣部和夫・鯖江市写真連盟

ベトナム戦争

1945 年（昭和 20 年）、日本が敗北すると旧植民地支配を復活させようとしたフランスと、独立しようとしたベトナム独立同盟（ベトミン）との間で戦争が勃発した。ゲリラ戦による戦争の長期化によりフランスでは厭戦気分が高まっていたが、1949 年 10 月に中華人民共和国が成立すると、アジアの共産主義化を恐れたアメリカが介入し、フランス軍を全面支援することとなった。

1954 年 5 月、ディエンビエンフー戦で敗北したフランスは同年 7 月のジュネーブ休戦協定に調印し、インドシナから完全に撤退した。しかし、アメリカは 1955 年に傀儡政権であるベトナム共和国（南ベトナム）を成立させ、ベトナム民主共和国（北ベトナム）と対立させた。1960 年、親米の南ベトナムを打倒しようとする南ベトナム解放民族戦線（蔑称でベトコン）が結成され、北ベトナムがこれを支援した。

1965 年、アメリカは北ベトナムへ大規模な空爆を実施して（北爆）、本格的な軍事介入を

開始し、最大 54 万人の兵力を投入した。しかし、期待されたほどの戦果はなく、逆に 1968 年 1～2 月に南ベトナム全土で展開された解放戦線による一斉攻勢（テト攻勢）により大打撃を受け、以後、アメリカ軍は守勢に回る。その後、世界的な反戦運動もあり、アメリカは 1969 年から撤退を開始した。アメリカ軍の支援を失った南ベトナム軍は瓦解し、1975 年 4 月 30 日、首都サイゴンが陥落してベトナム戦争が終結した。

ベトナム戦争による犠牲者は、アメリカ軍が死傷者 36 万人、ベトナム軍（南北合わせて）が死傷者 300 万人、行方不明 30 万人である。一方、ベトナム民間人の死傷者は 400 万人、住む家を失い難民となった人々は 1,000 万人とされる。

戦場カメラマン

世界各地の紛争や戦争に従軍記者の一員として赴任した報道カメラマンは、「死」と隣り合わせの危険かつ過酷で劣悪な環境に置かれ、常に危機感を持続しながら目前で起きている事実を冷静かつ客観的に伝える能力が求められた。

ベトナム戦争にも多数のカメラマンが派遣されており、ナパーム爆撃を受けた村から逃げる人々をとらえた『戦争の恐怖』を発表したニック・ウト（1951-）、捕らえたベトコン兵士を尋問せずに射殺する瞬間をとらえた『路上での処刑』を発表したエディ・アダムス（1933-2004）などが有名である。日本人カメラマンも、澤田教一をはじめ酒井淑夫（1940-1999）・一ノ瀬泰造（1947-1973）・石川文洋（1938-）らが通信社の一員あるい



はフリーのカメラマンとして現地入りしている。

澤田教一

澤田教一（1936－1970）は青森県青森市で生まれた。1955年（昭和30年）から青森市内の写真店に就職、その後、米軍三沢基地内の分店に移り、働きながら本格的に写真を撮影するようになった。1956年、写真店の先輩であり11歳年長の田沢サタと結婚、1961年に上京し、UPI通信社※₁東京支局写真部に入社する。1964年、皇太子夫妻のタイ国訪問を取材した際に、PANA※₂通信社特派員であった岡村昭彦※₃と出会い、ベトナム取材を決心する。

1965年、UPIサイゴン支局にカメラマンとして赴任し、この年の9月に、銃弾を避けながら川を渡る母子をとらえた『安全への逃避』を撮影、この写真で第9回世界報道写真コンテスト第1位を授賞した。

1966年5月、『安全への逃避』を含む一連の写真でピュリツァー賞を受賞。同年12月には、米軍装甲車がベトコンの死体を引きずっている『泥まみれの死』、米兵が塹壕から引きずり出したベトコン女性兵士を連行する『敵を連れて』が、第10回世界報道写真コンテストでそれぞれ1位と2位を授賞した。

1968年2月、テト攻勢の最中であるフエに入り、取材活動を行う。このときの写真が第



展示室

26回 US カメラ賞を受賞した。

1968年9月、UPI香港支局写真部長に就任するが、1970年には再びサイゴン支局に赴任、同年10月、カンボジアで取材中に銃撃され死亡（34歳）。1971年には、カンボジアを取材した一連の写真により、ロバート・キャパ賞を受賞した。

展示

1965年から1970年において、澤田がベトナムやカンボジアで撮影した作品150点余を展示した。『安全への逃避』・『泥まみれの死』・『敵を連れて』などの代表作をはじめ、展示作品には戦場での写真のみならず、悲しみがはびこる日常やそのなかで懸命に生きる人々の姿、人間の中に潜む光と影が写し出されており、観る者を圧倒した。

夏休み期間中に合わせ、観覧無料で開催したことで、多数の児童生徒が来館したことも有意義であった。



展示室

※1 UPI (United Press International) アメリカの通信社で1958年に成立。報道カメラマンノー瀬泰造(1947-1973)も所属した。

※2 PANA (Pan-Asia Newspaper Alliance) 1949年、汎アジア新聞同盟として設立、1963年に東京支局がPANA通信社として分立した。

※3 岡村昭彦(1929-1985) ジャーナリスト、ベトナム戦争を取材した報道写真で有名。